

10代のあなたに贈るブックガイド 2016

湖南市立図書館編集・発行

■マークは石部図書館に、★マークは甲西図書館にあります。

大人への一歩				
『ぼくは科学の力で世界を変えることに決めた』	ジャック・アントレカ、マシュー・リリアック/著 中里京子/訳	講談社	★	(289.3-アン)
15歳の少年は治療が難しいガンの早期発見法を開発した。いじめやうつなどさまざまな困難を乗り越え、前に進み続ける“科学オタク少年”の物語。				
『16歳の語り部』	雁部那由多・津田穂乃果・相澤朱音/語り部 佐藤敏郎/案内役	ポプラ社	★	(369.3-ジ)
東日本大震災から5年。東松島市立大曲小学校5年生だった3人が16歳のいま、“あの日”を語る。				
『もしも悩みがなかったら』	水野敬也/著 鉄拳/画	文響社	★	(726.5-モ)
睡眠薬を飲んで自殺しようとした僕の前に現れた不思議な女の子「悩美」。彼女は僕の悩みを減らすためにアドバイスをしてくれるというが…。僕の悩みが増えれば「悩美」は太りだし、悩みが少なくなると「悩美」はやせてきて…。				
『18きっぷ』	朝井リョウ/著	朝日新聞社	★	(371.4-ジ)
人生の岐路に立ち、選択を迫られた18歳たち。愛知、岐阜、三重に住む18歳に取材し、その素顔を紹介する。				

平和を考える				
『ぼくたちは戦場で育ったサラエボ1992-1995』	ヤスミンコ・ハリロビッチ/編著 角田光代/訳 千田善/監修	集英社インターナショナル	★	(239.3-ボ)
ボスニア・ヘルツェゴビナで1992年から4年続いたサラエボ包囲戦。街が戦場になり、人々は日常生活を奪われた。戦時下のサラエボで幼少期を過ごした人々に聞く「あなたにとって戦争とは何でしたか？」				
『トンネルの森』	角野栄子/著	角川書店	■★	(F-カド)
太平洋戦争のさなか、母を亡くしたイコは父の再婚相手と生まれたばかりの弟と三人で疎開する。東京では大きな空襲で街が燃え、父が行方不明に。				
『おかあさんのいのり』	武鹿悦子/著 江頭路子/絵	岩崎書店	■★	(E-オカ)
おほしさまがきえてくよあけ。あかちゃんが生まれた。このかわいい手も、いつかおかあさんの手をつつみこむほど大きくなるでしょう。その手がどうか銃などにぎりませんように。				

スポーツ				
『錦織圭 マイケル・チャンに学んだ勝者の思考』	児玉光雄/著	楓書店	★	(783.5-ニシ)
2014年9月6日。この日、日本テニスの歴史が塗り変えられた。錦織圭が日本人男子として初めて全米オープン決勝に進出したのだ。錦織圭の強さの秘密をスポーツ心理学者が解き明かしていく。				
『日本ラグビーの歴史を変えた桜の戦士たち』	ラグビーW杯2015 日本代表全31名/ 著	実業之日本社	★	(783.4-二)
2015年ラグビーW杯で世界ランキング3位の南アフリカに勝ち、日本ラグビーの歴史を変えた日本代表31名が激闘の舞台裏、チームへの想い、これからの日本ラグビーについて熱く語る。				
『五郎丸日記』	小松成美/著	実業之日本社	★	(783.4-ゴロ)
2015年ラグビーワールドカップでの活躍で一躍時の人となった五郎丸歩。その期間中自ら記していた激闘の日々の記録とこの四年間の心の動きをインタビューを通して描く。				
『チーム・ブライアン』	ブライアン・オーサー /著 樋口豊/監修 野口美恵/構成・訳	講談社	★	784.6-チ
羽生結弦を金メダルに導いた男、フィギュアスケートコーチのブライアン・オーサー。選手、コーチすべてを含めて「チーム・ブライアン」だと言い切る強さの秘密を羽生結弦との対談を交えて語る。				

怖いなし				
『くうきにんげん』	綾辻行人/作 牧野 千穂/絵 東雅夫/編	岩崎書店	■★	E-クウ
くうきにんげんは目に見えない。くうきみたいに軽くてどこにでも入っていける。くうきにんげんは、ふつうの人間におそいかかってくうきにんげんにかえてしまうんだ。くうきにかえられた人はだれからも気づいてもらえない。				
『鶴の家』	廣嶋玲子/著	東京創元社	★	(F-ヒロ)
茜は跡継ぎ鷹丸の遊び相手として天鶴家の養女になる。謎めいたしきたり、虫を恐れる人々、鳥女と呼ばれる守り神、代々の跡継ぎを襲う呪い…。鷹丸を守るため茜は魔物に立ち向かう決心をするが…。				

こんな本も…				
『14歳の地平線』	椰月美智子/作	双葉社	■★	(F-ヤズ)
14歳の加奈太と加奈太の気持ちがあつかめないかつて14歳だった父親、征人。夏休み、そんな二人が過ごしたのは父の生まれ育った「神様の島」。加奈太が参加したミステリーツアーでの体験と征人の思い出が交錯する。				
『おなやみ相談部』	みうらかれん/文 十々夜/絵	講談社	★	(児913-ミウ)
中学に入学した八枝は、先生から「おまえが部長になって幻の部活を復活させてみないか」と誘われる。「環境部」という名の人のおなやみを聞くのが部活!?				
『きみはうみ』	西加奈子/絵・文	スイッチ・パブリッ シング	★	(E-キミ)
深海は日が当たらない。真っ暗。出なきゃ、こんな場所から。きれいな場所へ。でもほんとう？ 真っ暗だってそれがそのひとにとってたいせつな場所なら絶対に美しい。				
『シナモンのおやすみ日記』	小手鞠るい/作	講談社	■★	(児913-コデ)
おばさんからもらった、かわいい猫の絵がすみに描かれた日記帳。なつみはその日記帳にいなくなった猫のシナモンにあてて「おやすみ日記」をつけることにした。なつみが悩みを書いたら、なんとシナモンからの返事が書いてあった。				
『めだかの王様』	岡田潤/作	金の星社	■★	(児913-オカ)
小さいときは仲が良かった健斗と結衣の兄妹。やんちゃな健斗はだんだん結衣を相手にしなくなり、冷たい態度をとるようになる。となりの工藤さんからゆずりうけためだかの鉢から勇者の手紙をみつけた健斗は少しずつ変わっていく。				
『鳥たちは空を飛ぶ』	目黒実/文 荒井良 二/絵	アリエスブックス	★	(726.5-ト)
鳥たちは空を飛ぶ。風に乗り、陽光を浴び、楽しげに、歌いながら自由に。でも飛ぶ鳥にはいつも哀しさがつきまとう。それはきっと何かから逃げている記憶があるから。むかしむかし鳥たちは飛ぶことを知らなかった。では鳥たちに飛ぶことを教えたのはだれ？				

ふしぎなおはなし				
『ふたつの月の物語』	富安陽子/著	講談社	■★	(児913-トミ)
親のいない美月と月明(あかり)は中学2年の夏休みにお金持ちの別荘に養子候補として招かれる。14年前にダム の底に沈んだ村、その村で行われていたある神事、さまざまな謎を追ううちにふたりは思いがけない出生の秘密にた どりつく。				
『女王さまの影 動物たちの視覚のはなし』	シベール・ヤング/著 千葉茂樹/訳	BL出版	■	(E-ヤン)
女王さまの舞踏会の最中に突然の停電。まもなく明るさは戻ったものの、なんと女王さまの影が盗まれた。名探偵 シャコがゲストの動物たちを調べていくが…。				
『過ぎ去りし王国の城』	宮部みゆき/著	KADOKAWA	■★	(F-ミヤ)
ヨーロッパの古城のデッサンを拾った中学3年生の真。絵の中に分身(アバター)を描き込むことでその世界に入り込 めることを知った真は塔の中にひとりの少女が閉じ込められていることに気づく。				
『だれもが知ってる小さな国』	有川浩/著 村上勉/絵	講談社	★	(F-アリ)
はちみつをとって生活する「はち屋」の息子ヒコ。ある日、両親の手伝いで山に入ったヒコは、突然聞こえた「トマレ！」 という鋭い声に危ないところを助けられる。				